

平成18年度第3回川崎区区民会議

日 時 平成18年12月11日(月)午後6時30分
場 所 川崎区役所7階第1会議室

出席者(敬称略)

(1) 委員 18名

須山令子、吉邨泰弘、森教祐、古川博子、長谷川幸子、原田歩、猪熊俊夫、金岩勇夫、
中村紀子、藍原晃、島田潤二、田辺富夫、魚津利興、朴栄子、青木恵美子、荒井敬八、
小笠原功、星川孝宜

(2) 参与 8名

市議会議員：飯塚正良、岩崎善幸、小林貴美子、佐野仁昭、西讓治、浜田昌利、林浩美
県議会議員：武田郁三郎

議題及び公開・非公開

- (1) 専門部会委員の選任について(公開)
- (2) 次世代を担う子どもの安全・安心を中心とした地域子育て支援について(公開)
- (3) 区のイメージアップについて(公開)
- (4) その他(公開)

傍聴人数

8名

1 開 会

事務局(会議の公開、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録を説明)

2 委員交代に伴う委嘱状の交付

事務局(かわさきタウンマネジメント機関運営協議会推薦委員の交代、それに伴い新たに委員に就任する猪熊俊夫委員への委嘱状の交付を説明)

[委嘱状交付]

3 委員長あいさつ

委員長 課題の解決方法には、区民ができること、区民と行政の協働でできること、行政が行うことといろいろあるが、それぞれの立場で実行に移して欲しいと思う。区民会議

では早急に成果があがること、また、できることから実行していきたいと思う。

4 諸説明

事務局（タイムスケジュール、配布資料、出席者を説明）

5 議事

委員長 議事に入る前に新たに就任した委員に就任のあいさつをお願いしたい。

委員 かわさきタウンマネジメント機関運営協議会の推薦で区民会議に出席しているが、川崎中央商店街連合会会長、チネチッタ通り商店街振興組合理事長も務めている。本日の区民会議での検討内容を会議録などで川崎中央商店街連合会にも情報提供し、商店街の立場で何かできるようになればと考えている。

（１）専門部会委員の選任について

委員長 川崎市区民会議条例施行規則第４条第２項に、専門部会に属すべき委員は委員長が区民会議に諮って指名すると規定されているので、かわさきタウンマネジメント機関運営協議会推薦委員には川崎中央商店街連合会の立場もあるので、イメージアップ部会に入ってもらいたいと考えている。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

（２）次世代を担う子供の安全・安心を中心とした地域子育て支援について

委員長 １１月１７日に第１回子育て支援部会が開催されたので、部会長から報告をして欲しい。

子育て支援部会長 これまで出された意見のうち、出産、小児医療・救急などの行政が取り組むべき課題は行政に要望していくこととし、子育て支援部会では安全・安心に絞って検討することが決まった。

部会は、関係者として招いた川中島中学校区地域教育会議議長から取り組み事例発表してもらい、それを参考に議論するという形式で進めた。関係者からは「子どもには家庭、学校、地域の３者がかかわっており、家庭と学校の連携は比較的取れているが、学校と地域は意外と取れていないので、まずその連携を密にすることが必要である」との意見をいただいた。

また、委員と事務局から、子ども総合支援ネットワーク会議における子どもの安全確保の取り組みの報告もあった。

各委員からは「事件が起こりやすい場所を調べて改善する」「実際に子供が不審者などに声をかけられた場合にどのように対応すべきかの啓発が必要である」「土曜、日曜における子どもの安全・安心を確保することがあまり取り組まれていない」「わくわくプラザから子どもと一緒に帰ってくれる大人がいると保護者は安心である」などの意見があった。

区民ができることの基本的な考え方は、それぞれの立場で継続的な見守り活動を実施することで、具体的には、継続的な見守り活動として「区民として日ごろの地域防犯体制を強化する見守り活動」「声かけ運動」など、土曜、日曜の安全・安心を確保することとして「公園や繁華街の巡回パトロール」など。区民と行政の協働として「家庭、学校、地域の連携の強化」「地域連絡会議の設置、連絡網整備」「事件が起こりやすい場所の改善、点検の実施」「地域安全マップ作成」「実際に子どもが不審者に声をかけられた場合の対応方法の指導」「防犯教室や講習会の実施」など。行政として「不審者情報の迅速な伝達」「地域における見守り活動の支援」などである。

委員長 今の子育て支援部会長からの説明は、部会で出た意見の中から特に安全、安心に絞ったものである。資料には出産、病気、経済的支援などもあるが、それらは行政に要請したいと考えている。

イメージアップ部会委員の皆さんから意見をいただきたい。

委員 先日、区内の中学校の校長先生や生活指導担当の先生が集まった会議が開催された。その中で安全・安心は地域で取り組むのが本来の姿だろうという意見があった。また、家庭や保護者にも問題があるので、保護者にも会議に参加してもらうような工夫が必要だろうという声もあった。例えば、義務教育だからという理由で給食費を払わない、子どもが校庭の石を投げて校舎の窓ガラスを割っても「校庭に石があるのが悪い」と言うなど、何を考えているのかわからない保護者もあり、危惧している。会議の結論としては、地域で声掛けをして、子育て支援部会で出されたような取り組みをしていくことにまとまった。

区民会議では区民が参画して、一つ一つ事業に取り組んでいきたいと考えている。

委員 学校と地域の連絡についてだが、小学校は比較的連絡が取れているが、中学校は行事やお祭りなどの時しか連絡を取っていないので、中学校の先生と地域がもっと連絡や触れ合いを持つ工夫があればよいと思う。

公園での見守りについてだが、一番トラブルが起きるのが公園なので、その公園につきっきりで見守る人が必要だと思う。

地域教育会議についてだが、地域に広報紙等で情報を伝え、地域の人に理解してもら

う工夫をしていけたら良いと思う。

委員 今犯罪が低年齢化し、児童の犯罪が増えていると聞くが、それについては学校に見守りや指導などをする力があると思う。

地域の教育力と言われているが、保護者は地域の力を借りたいと考えているので、何か接点をつくってあげられれば良いと思う。また、地域と学校の接点も考える必要があると思う。その際は、児童のボランティアのように子どもを中心とした活動にするべきだと思う。大島小学校では児童が高齢者に手紙を書いたり給食に招待したりし、子どもと地域の人とのコミュニケーションの機会を増やしている。そうすることで、地域も子どもの安全に向けていくと思う。

公園にはいろいろな人の目が届いているはずなので、保護者が視点だけでなく全方位的な視点で死角をなくして欲しいと思う。

中学生になると社会に目を向けるだけの思考力が出てきていると感じる。大人の考えというか、社会と接する中で自分たちが地域にどう受け入れられるのかを考え、地域と一体化する気持ちになると思う。そういった考えを子どもに与えるのではなく、主体的に持たせるような環境を地域でつくるのが安全・安心につながるのではないかなと思う。

委員 今年から子ども110番のステッカーがドラえもんの絵柄に変わったが、大変人気の絵柄のために持ち去られるということが何カ所かあったそうだ。持ち去る人のモラルの問題かも知れないが、しっかりと取り締まっていただきたいと思う。

第2回区民会議で「となりのおばちゃん」という京都市地域女性連合会の制度を紹介したが、ぜひこの件は実現したいと思う。

委員 子どもの安全・安心については、昨今の社会情勢をかんがみ、これまでの取り組みを強化、充実させようということだと思うが、子どもの安全というより地域や社会が物騒になってきたことへの安全対策のように感じる。

見守り活動というと活動するのは昼間だと思うが、仕事をしている人は協力をお願いされても難しいのではないかなと思う。

「となりのおばちゃん」制度のように、若い夫婦は子育ての経験、知識が不足しているために大きな負担がかかっているといった問題を取り上げ、それを子育て経験者が支援するような制度を構築するといったテーマの方がわかりやすいと思う。安全・安心というと、漠然としていて、総花的に感じがする。

委員 継続的な見守り活動はいろいろな団体が既に実施しており、目新しさがないと感じ

る。活動を強化、充実するという意味では意義があるが、子育て中の保護者の視点で何か新しい取り組みが提案できれば良いと思う。

区民会議としてこういうものを打ち出したい、こういうものに注力しているというような姿勢が見えると良いと思う。区内全域で取り組むことが難しい場合は、地域を限ってモデル的に実施するなどの考え方があっても良いと思う。

委員 保護者の親権意識というか、自主性というかそういうものがなくなっている。子どもを産んだら地域、学校が守るという考え方をしており、権威が薄れてきていると思う。

子供会活動などを一生懸命やっている子どもは自立しているので、地域活動に子どもを参加させることが安心・安全の早道だと思う。

昔は小学校の通学カバンに名前が書いてあったから名前を呼んで声を掛けられたが、今は名前が書いていないから呼ぼうとしても「おい」や「こら」となってしまう。子どもはそういった声を掛けられたら逃げるように教えられているため、何か工夫をしないと子どもと地域の大人が接触する機会がなくなってしまう。

昔の子どもは親に内緒の秘密基地を作って遊び、友達との連帯を強めていた。そういったことを考えると、もう少し子どもたちの自主性を重んずる必要があると思う。保護者にも周りの人の力を頼りにし過ぎない育て方をお願いしたいと思う。

委員 子育て支援だけではなくイメージアップにも言えることだが、第3回区民会議に至り区民会議の本質というか、核心に迫ってきたと思う。

安全・安心に関して言えば、継続的な見守り活動はこれまでもいろいろな団体、機関で実施してきた。区民会議は地域の課題を抽出するだけでなく、解決することが役割であるため、誰がどのように地域の人と共に活動するのかを議論することが会議の中心である。区民会議としてどのような協力や関わりができるのかを議論しないと、課題解決という大きな主題が果たされないのではないかと感じる。

子ども、保護者の意識改革という意見があったが、これは短期間にできることではないと思う。安心・安全は緊急的課題ですぐにでも取り組まなければならないと思う。

単なる審議会が終わっては区民会議の持つ意味がなくなると危惧している。

委員 商店街は子どもの安全・安心にはある意味反するようなどころがある。例えば、遊技場で保護者が子どもに打たせていたということも見かける。しかし、商店街の立場ではそれを指導するのは難しい。安全・安心なまち歩きというか、そういうことは商店街の立場では難しいところがある。

まちの美化ということでは自転車の問題がある。チネチッタ通りから銀柳街通りにすごい数の自転車が並んでいるが、どうすればそれらの放置自転車をなくすることができる

か。また、商店街を後ろに子ども乗せた自転車が猛スピードで走って行くことがあり、危険である。

以前、宮前小学校のPTA会長を務めていたときに鉄棒に子どもがぶら下がったら肩が抜けてしまったことがあったが、原因は家庭の食事の栄養不足だった。このことから、先ほどの自転車の問題も含め、保護者の教育が第一ではないかと感じた。

商店街ではまずまちの美化を考えている。まちが美化されれば放置自転車などもなくなり、子どもも商店街を歩くときは安心・安全に歩けると思う。

アメフトワールドカップについては、川崎駅から川崎球場への動線上の美化がうまくいけば、素晴らしい大会になるのではないかと思うが、今のまままちが汚ければ、外国から来た人にマイナスの印象になると思う。

委員 12月に入り不審者情報が非常に多く入っている。12月1日に京町の公園、3日に渡田四丁目の5と、学校だけでなくPTA、民生委員協議会からも緊急連絡が入り、すぐに取り組みを開始した。

このように不審者などの問題が今一番子育て支援部会でも大切ではないかと思う。たまたま2件とも事件には至らなかったが、この問題は大切なことなので、取り組んでいかなくてはならないと思う。

委員長 子どもの安全・安心は緊急の課題と考え、子育て支援部会でも最初に取り組むことに決まったと思う。今日でも明日でも起こり得る状況なので、既にいろいろな団体でも取り組んでいるが、区民会議でも早急にまとめたものを出していきたいと思う。

(3) 区のイメージアップについて

委員長 11月21日に第1回のイメージアップ部会が開催されたので、部会長から報告をお願いします。

イメージアップ部会長 身近な環境整備に関して、これまで出された意見のうち特に放置自転車の問題が多かったので、建設局自転車対策室から行政の取り組みの説明を受け、それを中心にして議論した。川崎区で放置自転車が多い理由として、区内が平地であること、バス路線がJR川崎駅に向かっていること、自転車が手軽に買えることなどが挙げられるが、いずれにしても抜本的な解決には費用と時間がかかるという説明があった。

主な意見は「自転車メーカーや販売店にも責任があるので販売時に千円くらい上乗し、その費用を自転車対策に充てる」「自動車のような登録制度を導入する」「自転車を放置する人には自分は便利でも周りが不便になっていることを感じてもらいたい」

「自転車が軽車両であることが認知されていないので、自転車教室などを開きながら自転車というものを認識してもらう必要がある」「特に銀行、遊技場に放置自転車が多いので、それらの周辺を重点的に対応する必要がある」などである。

具体的な取り組み案は、放置自転車対策はマナー啓発に尽きるが、マナーアップとおもてなしの心といった気持ちまで広げていく必要がある。区民ができる、あるいはすべきことは身近な清掃や整理整頓の実施の奨励で、自転車の整理などが必要だろうということにまとまった。

区民と行政の協働では、自転車は軽車両であることを周知徹底し、正しい乗り方、駐輪場利用の徹底などを実施し、行政は駐輪場などのハードの整備お願いしたいということにまとまった。具体的には、川崎駅東口放置自転車対策実行委員会など既に進められている放置自転車の整理や啓発活動をさらに充実させていくことなどである。

委員 美化活動や放置自転車の整理は一人一人のマナーアップがなければできない。以前に「花いっぱい」として区役所前に花を植え、区役所内の窓口などもきれいにしたことがあった。一人一人が気をつけて、全体では大変かも知れないので、例えば区役所の周りや駅の周りなどを重点的にできるところから実施したらよいと思う。

一人一人が自分の身は自分で守り、子どもの安全は保護者が守った方がいい。地域の人に頼らず一人一人が気をつければマナーアップできるのではないかと思うので、それを区民に広めたら良いと思う。

委員 アメフトワールドカップが成功し、観戦に来た人が川崎に来てよかったと思うようにしたい。その期間だけでも行政に費用を負担してもらい、花を飾ってきれいにしたいと思う。街路樹も計画的に剪定し、その時期はきれいにしたいと思う。地域の人宅前の街路樹の剪定することが可能なかわからないが、地域の人に声をかけ、簡単な剪定はしたら良いと思う。区民ができることを区民が力を合わせて実施できれば良いと思う。

委員 長年PTA活動をしているが、保護者に何かを伝えることが一番難しい。保護者にも教育をとという意見もあったが、周知していく努力をしていきたい。

子どもを乗せた保護者の自転車がとても危ないという意見があったが、子どもを自分の自転車に乗せざるを得ない場合もある。子どもを子ども用の自転車に乗せて自分も自転車に乗ると本当に大変なので、後ろに乗せた方が保護者にとっては安全だといった気持ちがある。保護者にもどういう乗り方が危険かを伝えていく必要があると思う。

駐輪に関しては、駐輪場がもっとたくさんあればすんなり止められる。止めようと思ったときに探しても、何カ所も探して結局一番奥の駐輪場に大体とめる。また、金融機

関に預金をおろしにいくなどちょっとした用事で5分間止めるだけなのに、駐輪場を利用して利用料を払うのは抵抗がある。金融機関や商店にもそういったことを考えて欲しい。大型商店は駐車を完備しているところが多いが、駐輪場を完備しているところは少ないと思う。そのことを考えてもらえば、もう少し良くなると思う。

委員 子どもを乗せた保護者の自転車が、自動車にとっては一番危険だと思う。自転車の乗り方を保護者に伝える場合、川崎区PTA協議会の中で周知するより、外部の人に講義してもらったほうが効果的である。

家庭での子どもの教育もそういう方法の方が良いと思う。PTA団体が保護者をうまく指導していくことで、いろいろな問題が少しでもなくなっていく礎になると思う。

委員 放置自転車の問題で、例えばさいか屋横に非常に多く自転車が止められており、多分さいか屋の従業員だと思うが、二人くらいで歩道の端に片づけてくれている。しかし、そのためにかえってあそこに止められてしまっている。やはり駐輪場がないのだろう。

委員 チネチッタ通りでは放置自転車が一台もないと思うが、自転車が止められる最初の原因は、その通りにある商店の従業員が駐輪することである。120人くらいの従業員がいてその人たちが毎日駐輪すると、通行人も「ここは駐輪してもいいのだ」と感じて駐輪してしまう。そこで、従業員は無料で駐輪できるようにステッカーを発行した。また、チネチッタの運営会社の警備員が2人で駐輪されないようにしている。その警備員が周辺も併せて警備をしていたことで放置自転車がなくなったのだと思う。

さいか屋の敷地に自転車の前輪が触れるとその自転車は撤去できないそうだ。そこで、さいか屋に敷地に青いバリアを張ってもらい、前よりも大分少なくなったと思う。しかし、映画街の入り口にはまだまだ自転車が多い。これをどのようになくすかは行政にお願いをするしかないと思う。

イメージアップということでは、商店街でドラッグストアの競争が起きている。ドラッグストアに挟まれた商店があるが、ドラッグストアが歩道まで商品を陳列しているため挟まれた商店も歩道まで陳列する。これも解決すべきだが、やはり難しい問題である。

そのほかにも捨て看、客引きなどの問題にも各商店街がいろいろ協議をしている。

委員 以前「都市計画マスタープラン」の作成に参加したことがあるが、その報告書で提案されている中で実際に実施されたのは、東海道と健康の森の二つだけである。しかし、それらはそこで初めて提案したのではなく、既に市で計画していたことだった。

そのほか、放置自転車が大きな問題だったが「何台收容する場所を増やした」「JRに何台收容する場所をつくってもらった」と単発の計画の実行はあったが、一挙に解決

するような行動が行政にない。なぜ区民が川崎駅に自転車で来るのか、朝から晩まで止められているのかを考えると、京浜急行、JRを利用する人の自転車がほとんどである。それがなくなり、ふだん買い物に来る人の自転車だけならば市が設置した駐輪場で十分対応できるはずなので、なぜ民間企業のために市有地、歩道などを駐輪場にするのかという理論が成り立つと思う。JRの線路やホームなどの土地があるので、有料でも構わないからそこを駐輪場にしてもらおう。JRにとっては自分のお客様のためののだと発想の転換をさせるといえる考えもあると思う。

川崎駅前までバスを侵入させないようにする。昔のトロリーバスは京浜急行の線路があったためにさいか屋や小美屋（現在のDICE）の前で転回していたが、そのような形で公共交通機関を駅前まで侵入させないようにし、地上をバリアフリーにすることは予算を投入しなくても簡単にできると思う。アゼリア地下街の商店の問題は、ラゾーナの事例でもわかるように、商店に魅力があればお客さんは来ると思う。

マナーの向上をするというのが具体的にどのようにするのか。自転車教室1回の開催で何人に対応できるのか。10年、20年たっても、乗り捨てに近い形で自転車を放置するような人を指導することは不可能に近いと思う。自転車教室を担当する人たちも、何回かでさじを投げてしまうと思う。

花で飾るといふ意見もあったが毎日水やりなどの手入れをしなければならない。自分の庭の花でさえすごく大変である。「海風の森をMAZUつくる会」のメンバーが駅前の植物に水やりなどを行っているが、行政はいろいろと口を出し、ボランティアをしている人のやる気をそぐようなことばかりしている。

美辞麗句を並べるのは誰でもできるが、いつどこで誰が何をするのか具体的に議論しないと区民会議を設置した価値がないと思う。もう少し自分たちで何かできること、リーダーシップを取ってできることを議論する。実際にやろうとなれば何十人も参加するので、まとまれば何でもできてしまう。もう少し区民会議が率先して汗をかくような提言をしないと、何のために区民会議を開催しているのかわからない。

委員 大人の指導が大変だと思う。自転車の乗り方指導もそれぞれの地域でだいぶ実施しているが、全部が全部できているわけではない。大人が子どものお手本になり、自転車の乗り方も子どもに指導していくようにしないといけないと思う。

まちの美化については、ポイ捨て禁止条例の取り締まりは実施しているだろうか。まずバス停をきれいしなければならないと思う。以前はバス停に灰皿があったが、今はないのでその分きれいになっていると思う。秋になり枯れ葉も多くなっているが、その掃除はどのようにしているのだろうか。私の住んでいる地区の学校や公園などの周辺は、それぞれ近隣の人が掃除をしている。大通りをきれいに花で飾ることも良いと思う。

アメフトワールドカップ開催中に東西自由通路にテレビを設置して観戦させるという

案は大変良いと思う。

自転車を減らすにはどうしたら良いかと考えている。最近では地域の商店街の一部の商店が閉店してしまっているのので、川崎駅前の商店街やさいか屋などのデパートに買い物に来る人が多いのではないかなと思う。あるいは通勤に自転車を使っている人も多いと聞く。

きれいなまちをつくるために駅前周辺だけでなく、例えば大島から藤崎にかけても花をいっぱい植えてきれいにしていきたいと思う。

商店街にももう少し力をつけて商売をして欲しい。大型スーパーに買い物に行くために自転車が必要なのであり、身近な商店街で買い物できれば自転車は要らない。そのため、もう少し身近な商店街に頑張ってもらいたいと思う。自転車に子どもを乗せて、トイレットペーパーのような大きなものを買ってくる人がいる。あるいは、大根一本だけ買ってくる人もいる。そういう物は身近な商店街で買えばいいと思う。大型スーパーで1000円のもので商店街では150円でも良いと思うが、そういう考えが今の若い主婦などにはないと思う。

委員 私の子どもも川崎駅から電車で通学している。自転車で川崎駅まで行くが、よく撤去されている。ちょっと時間が遅くなったら止める場所がなく、しかも電車にも間に合わない。駅から離れた駐輪場はあいているが、そこまで行くと遅刻してしまうので駐輪禁止地区に止めてしまうということをよく聞く。

もう少し駐輪場があったら良いと思っても、駅前の土地がない中で工夫しなければならないが、先ほどのJRの土地に駐輪場をつくってもらいたいという意見のように、いろいろな人が力を合わせたらもっといろいろな工夫が出てくるのかも知れないと実感した。

さいか屋前の青い駐輪禁止は花壇のようなものでも良いと思う。花の方が、まちがきれいに見えると感じた。

缶やペットボトルのごみ箱が駅周辺からなくなっているために茂みなど捨てている人を見かける。缶やペットボトルならばつぶしてリサイクルする機械があると思うが、それを設置すればいろいろな人が使用し、リサイクルも身近に感じて良いと思う。人が多いところにたくさん設置すれば、リサイクルになり、まちもきれいになると思う。

アメフトワールドカップは、外国の人がたくさん来るので、これを機会に区が外国人にもわかりやすいまちに変わるとずっと住んでいる外国人も便利になると思う。

委員 自転車の安全対策だが、数年後に実施予定の小田公園の改修のためにまちづくりクラブでいろいろと議論している。都内の公園を見学したが、ボランティアの人たちが三輪車、補助輪付き自転車、子ども用自転車などを自由に借りられて、決まったルールの中で自転車の訓練ができるという施設があった。そのように自転車を子どものときか

ら、マナーを含めて交通事故に遭わないような教育をすれば良いと思う。

自転車は安くて気軽に買えるが自転車を練習する場所がない。狭い道からいきなり大きな道に出るととても危険である。そういう意味からも子どものときから、例えば川崎南高校跡地などで自転車の練習ができるようになれば良いと思う。

小田地区は自転車が唯一の交通機関なので、本当に重要な問題だと思うが、通勤や通学で利用する人が朝早く駐輪し、買い物などの用事に来た人が放置するのではないかと思うので、そのことを徹底的に調べてどうしたらいいかを検討したら良いと思う。

委員長 放置自転車問題は、駐輪場が通勤、通学で利用する人で朝早くいっぱいになってしまうということなので、多少川崎駅から離れた場所に駐輪場を設置し、無料にしてそちらに誘導するなどすれば、昼間のちょっとした用事や買い物などで川崎駅に来た人が自転車を放置することが少なくなるのではないだろうか。

先日テレビで「ラストサムライ」や「オールウェイズ三丁目の夕日」が放送されていたが、「ラストサムライ」は130年くらい前、「オールウェイズ三丁目の夕日」は50年くらい前の話であるが、50年でこんなに変わったという印象を受ける。日本人が持っている、先ほど意見も出された「となりのお婆ちゃん」のような地域での助け合いがあったと思う。それが、ハードは整備されたが逆にハートはなくなってきている。

以前に意見が出された不便さを感じることも必要だと思う。駅に着いたらすぐそこから電車に乗るということは、昔はなかったと思う。地方では今でも徒歩で何十分もかけて通学しているところもある。そういう経験をしていないからマナーが守られない。

昔は通学カバンに名前が書かれていて、その子どもが悪いことをした場合そのカバンの名前で誰だかわかったこともあったが、今は個人情報といって何でも否定されてしまう。本当はあるべきものまで失われている感じがする。お互い日本人の美德でいろいろ譲り合えることがあると思う。

今後イメージアップ部会、子育て支援部会で実行できること議論し、第4回会議では具体的に意見としてまとめられるようにしていきたいと思う。

委員長

参与の先生に一言お願いしたい。

参与 ある小学校の先生と話をしたところ、昔と今では子どもが変わってきていると言っていた。昔はこんなに落ち着きがない子どもが多くなかった。落ち着きがなく、話が聞けない。また、注意をしても聞かない子どもが増えている。それは学校に来てから変わったのではなく、家庭での幼児教育、保育園、幼稚園が影響している。保護者が子どもをどう育てていいかわからない。昔は祖父母がそばにいろいろなアドバイスできた

が、今はそういう状況が望めない若いご夫婦がたくさんいる。若い夫婦に対する相談やアドバイスなど、もっと手を差し伸べて子どもが健全に育つような状況を社会全体でつくっていかねばいけないという声を聞き、これからの未来を担う子どものために何ができるかを区民会議で一つでも実効性あるものを共につくっていったらと思う。

参与 イメージアップ、子育て支援の二つの課題は大変大切な課題である。議会でももっと取り上げてしっかりやっていかねばいけないと感じた。区民と力を合わせて頑張っていきたいと思う。

「となりのおばちゃん」制度の意見が出たが、来年ごろに「子育て等安心マンション認定制度」というのが川崎市でできる予定である。この制度には地域の子育て経験豊富な人と子育て中の人との交流をするシステムをつくることも盛り込まれている。

公園についての意見もあったが、今公園も地域で運営協議会などを設置するような取り組みが始まっている。この中で安全・安心では子どもに優しく、安全な公園が地域で実現できると思うので、そのことも検討して欲しい。

イメージアップは、ご当地検定、東京は江戸検定とか、京都は物知り博士などが各地で盛んになっている。神奈川も来年神奈川検定として、神奈川ライセンス、横浜ライセンスの二つをつくるが、川崎ライセンスはないと思う。川崎検定みたいなものをつくり、自分の住んでいるところは意外と知らないことがあるので、問題を解きながら地域への愛着を高めることができるのではないかと思う。川崎商工会議所や観光協会などにもいろいろ考えてもらい、受けとめて欲しい。川崎を知ってもらおうことがイメージアップにつながると思う。

参与 安全・安心を中心とした地域子育ては、いろいろな取り組みを継続していくことが必要だと思う。その継続をすることの困難さがこれから出てくると思うので、どうすれば継続できるのか、また、新しい取り組みもいろいろ審議をするだろうが、これまでの取り組みの継続と新しい取り組みそれぞれを検討する必要があると感じた。

イメージアップは自転車についての意見が多く、議会でも放置自転車や駐輪場対策を取り上げているが、大変難しい問題であるが、強制撤去などしない限り一掃ができないのではないかとはいひどい状態になっていることは事実である。強制撤去は難しいので、意見があった自転車メーカーや販売店にも費用を拠出してもらうことも重要だと思う。もっと利便性の高い駐輪場を建設していくに当たっては、JR、デパート、商店街、金融機関、遊技場などからも協賛金のようなものをいただくことも良いのではないかと感じた。放置自転車、駐輪場対策は今後の重要な区あるいは市の課題として議会でもとらえているので、解決に向けて力を合わせていきたいと思う。

参与 区民会議も第3回なので、ありきたりの議論では第1回傍聴されている人にとっては周知の内容だと思う。区民会議の活動方針を第4回くらいから、できるところからでも打ち出して欲しいと思う。

自転車の問題、安心・安全なまちづくりの話があったが、具体的な内容をどうまとめ、社会環境がどういう状況にあるのか兼ね合わせながら取り組むことが大切だと思う。

区民会議も活動の指針を打ち出し、行政を巻き込んで改革していくという方向を議論することが大切だと思う。

交通マナーで小田公園を改良してはどうかと、委員からの意見があった。桜川公園の一画に交通公園があるが、委員の期待にこたえられるほどの交通公園ではないので、ここを改良して子どもも高齢者も交通問題の勉強や体験などができるようにするような案も検討できると思う。

先日ある新聞社がいじめ問題や地域社会の乱れについて全国調査を行った結果、家庭における社会ルールについて話し合いを持たない家庭が65%に上った。ここに自転車の問題、あるいはそのほかの社会悪の問題なども派生してくるのではないかと思う。

先日大師地区商店連合会が暮れの交通安全運動の一環として、大師地域の女性連絡協議会の人と幼稚園の園児が大師商連の踊りをしながら商店街をパレードしたが、この取り組みの成果は大きいと思う。こうした地域の運動がイメージアップ、あるいは区をこうしようという方向につながると思う。大胆な行動を起こすことが大切だと思う。

委員長 第4回会議は子育て支援、イメージアップ両部会がそれなりに実現する内容を持って開催したいと思う。

この中で参与の先生にお願いすることもいろいろ出ているので、それについては取り組んでいただけたら良いと思う。

(4) その他

委員長 議題の第4番目のその他で、事務局から川崎区協働推進事業について説明をお願いする。

事務局 (川崎区協働推進事業を説明)

委員長 第4回会議では各部会で意見をまとめたものを議論し、一日も早く実行に移したいと思う。

事務局 最後に事務連絡と区長からお礼を申し上げる。

事務局（会議録の公開、市政だよりへの記事掲載、次回日程を説明）

区長（お礼の言葉を述べる）

5 閉 会

事務局 以上で平成18年度第3回川崎区区民会議を終了する。

午後 8時47分 閉 会